

7月14日の梅雨前線における下笠ダム・松原ダムの効果について

ダムにより小湊地点の水位を約0.5m低下

平成22年7月15日 11時30分発表
九州地方整備局 筑後川ダム統合管理事務所

- ・下笠（しもうけ）ダム・松原（まつばら）ダムへ入ってくる水量の一部を貯める（洪水調節）ことで、最大流入時には下流へ流す水量（ダム通過量）を約6割に低減しました。
- ・この結果、ダム下流の小湊地点で水位を約0.5m低下させたものと推測しています。

- 九州北部地方に停滞した梅雨前線の影響により、筑後川上流では7月10日16時頃から雨が降り始めました。
- 下笠ダムでは、ダムに流れ込む水量（流入量）が毎秒350立方メートル（洪水調節開始流量）に達した14日11時40分から、ダムへ入ってくる水量の一部を貯める操作（洪水調節）を開始しました。また、松原ダムでは、ダムに流れ込む水量（流入量）が毎秒700立方メートル（洪水調節開始流量）に達した14日12時00分から、ダムへ入ってくる水量の一部を貯める操作（洪水調節）を開始しました。
- その結果は、14日13時20分頃、ダムへの最大流入量毎秒1,245立方メートルのうち、毎秒518立方メートルをダムに貯留することで、下流へ流す水量を毎秒727立方メートルまで低減する操作を行いました。その効果は、日田市の「小湊水位観測所」で水位を約0.5m低下させたものと推定されます。
- ダム上流域の降雨及び洪水調節の状況は下表に示すとおりです。

項 目		数 値	備 考
下笠ダム 松原ダム	ダム上流域 総雨量	320.9mm	7/10 16:00～7/14 18:00
	平均雨量		
	最大1時間雨量	34.6mm	7/14 9:00～10:00
	最大流入量	毎秒1,245立方メートル	7/14 13:20
	最大流入時ダム通過量	毎秒 727立方メートル	←最大流入量の約6割
	最大流入時低減量	毎秒 518立方メートル	
	ダム貯留量	399万立方メートル	
* 小湊水位 観測所	観測水位（7/14 14:20）	3.34m	水位危険度レベル 2
	ダムがなかった場合の水位（推定）	3.82m	水位危険度レベル 2
	洪水調節による水位低減量（推定）	約0.5m	

※小湊水位観測所：大山川と玖珠川の合流点より、約0.5km下流地点

※本資料は、筑後川ダム統合管理事務所ホームページ（以下のアドレス）に掲載しています。

<http://www.qsr.mlit.go.jp/toukan/>

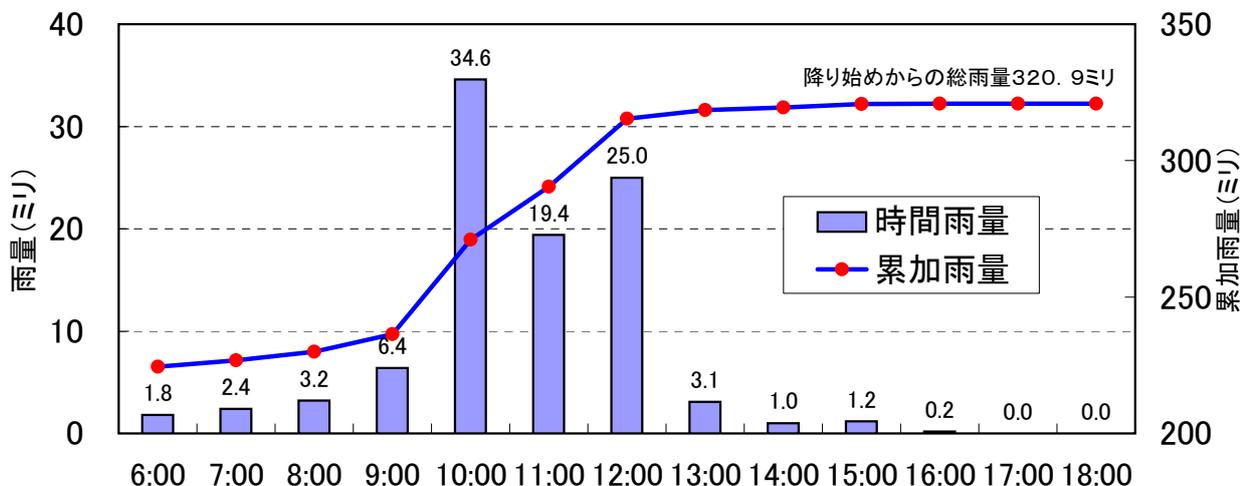
※速報値のため各数値は変わる場合があります。

（問い合わせ先）
国土交通省九州地方整備局 筑後川ダム統合管理事務所
副 所 長 本 多 力
Tel (0942) 39-6651 (内線 202)

下笠・松原ダムの洪水調節状況

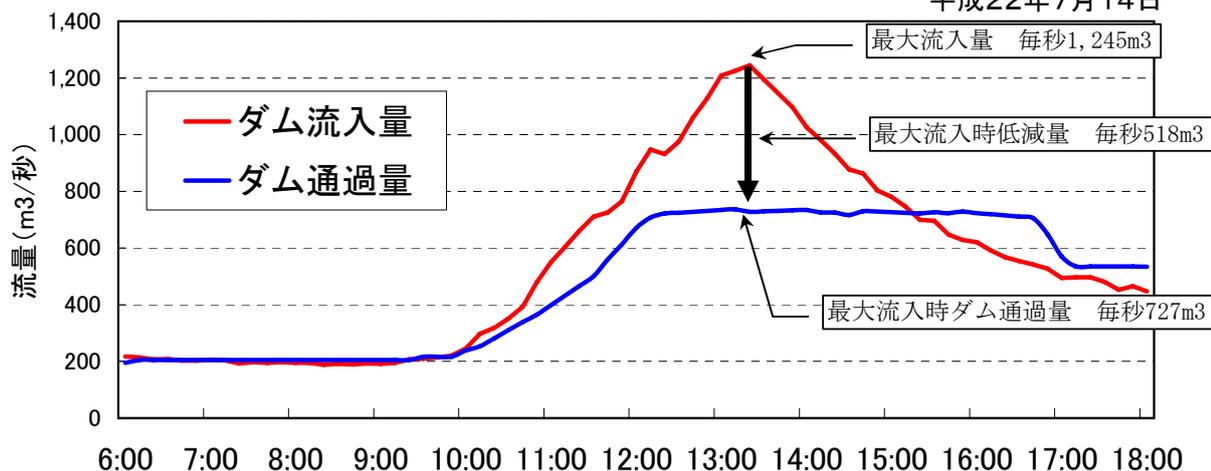
下笠・松原ダム流域の降雨量

平成22年7月14日



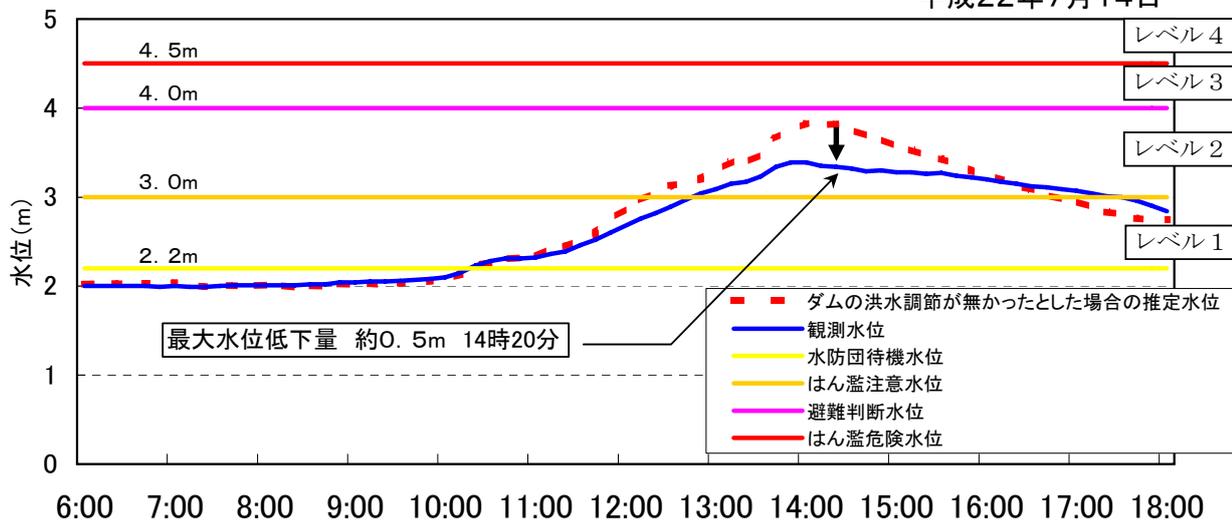
下笠・松原ダムの流入量と通過量

平成22年7月14日



河川の水位〔小淵水位観測所(日田市)〕

平成22年7月14日



下笠・松原ダムでの洪水調節状況
 最大流入時に下流へ流す水量(ダム通過量)を約6割に低減しました



洪水を調節する前の下笠ダム貯水池
 (洪水調節容量率0%)



洪水を貯留した後の下笠ダム貯水池
 (洪水調節容量率6.5%)



この結果 ...

○小湊水位観測所地点における下笠・松原ダムの効果図 (推定)
 大山川と玖珠川の合流点より、約0.5 km下流地点

水位を約0.5m低下させました

